

越谷市立大袋東小学校下水道教室

押領司重昭

6月30日に大袋東小学校で出前授業として、「よごれた水はどうやってきれいになるの？」をテーマに下水道教室を開催しました。4年生の社会科の一環として3クラス78名を対象に1階の調理教室において授業を行いました。クラスごとに1回45分の授業を3回行いました。

内容は、座学（水の使われ方、下水のゆくえと下水処理の仕組み、微生物の種類）、紙芝居（クマムシくんと仲間たち）、活性汚泥微生物の顕微鏡観察及び体験学習のツマラン管の実験を行い、最後に環境を守るために水を汚さない生活の工夫についてみんなで考え授業のまとめを行いました。

今回の下水道教室への参加者は、埼玉県下水道公社から3名、NP021世紀水倶楽部から4名、水コン協関東支部から3名、彩の国下水道同好会（県・さいたま市・下水道公社0B）から7名、メタウォーター株式会社から4名の計21名でした。

昨年は、顕微鏡観察とクマムシくんとクマニャンコちゃんの着ぐるみを見送りましたが、今年は、従前のカリキュラムを実施することができました。

顕微鏡観察では、クマムシをはじめ様々な微生物を直に観察することができ子供たちは興奮していました。ツマラン管の実験では、トイレットペーパーとティッシュペーパーを別々のペットボトルの水の中に入れてよく振った後、実際に流して流れの違いを観察しました。子供たちは、ペットボトルを両手で持って夢中になって振っていました。また、両ペーパーの流れ具合の違いも実感していました。

この出前授業は、5つの団体が連携して行うもので、この点からも価値があると考えます。子どもたちにも好評でしたので、来年も是非、大袋東小学校におじゃましたいと思えます。

